

# ピアノミュージッククリエイターコース(パターン①)

〈パターン①と次ページのパターン②のいずれかを選択して受験〉

※ピアノ実技(1曲)と小論文等及び面接の「パターン①」と、ピアノ実技を主とした「パターン②」を選択できます。

- 作曲・音楽デザインコース
- サウンドプロデューサーコース
- 指揮コース
- ピアノ演奏家コース
- ピアノ指導者コース
- ピアノミュージッククリエイターコース**
- オルガンコース
- 電子オルガンコース
- 弦管打楽器コース
- 弦管打楽器演奏コース
- ウインドソフオーコース
- 声楽コース
- ジャズコース
- ポピュラー音楽コース
- アートマネジメントコース
- 舞台スタッフコース
- 音楽療法コース
- ミュージカルコース
- バレエコース
- 音楽教養コース

試験科目	内容	注記	A	同	特	公	一
			○	○	○	○	○
1 主科実技課題	以下の(1)と(2)の両方を受験する。 (1)自由曲1曲(10分以内) ※自作品およびポピュラー作品を除く。 (2)以下の(a)~(e)のいずれか1つを選択する。 (a)自作品演奏(ピアノソロ曲3分程度、出願時に楽譜を提出する) (b)ピアノ即興演奏(2分程度)。冒頭数小節のモチーフを当日出題 (c)ポピュラー作品(自編曲を含む)ピアノ演奏(3分程度) (d)小論文(上記(1)で演奏する曲目について当日記述)600~800字、60分 (e)「創作」についての口頭でのプレゼンテーション(5分程度)	※(1)は繰り返しなしで暗譜とする。 ※(a)の楽譜提出は、手書きでも、メロディーとコードでも可。出願後に修正がある場合は、試験当日受付に再提出しても良い。 ※(2)の(a)(c)は原則として、繰り返しなしで暗譜でなくてもよい。 演奏の途中で止める場合がある。	○	○	○	○	○
2 楽典	筆記試験(60分)		○	○	○	○	○
3 ソルフェージュ課題	以下の(a)~(c)のいずれか1つを選択する (a)旋律聴音2題、および和声聴音1題(上三声密集四声体) (b)F. Wüllner: Chorübungen der Münchener Musikschule(コールユーブンゲン第1巻)No.43c)、43f)、48a)、50d)、52b)、55b)、57b)、58b)の中から1曲を当日指定 (c)新曲視唱	※聴音および新曲視唱の実施方法は14ページを参照。唱法は固定ド、移動ドいずれでもよい。	○	○	○	○	○
4 主科面接	主科に対する試問および出願書類(AO面接資料等)に関する内容を含む		○	○	○	○	○
5 特待生作文	指定する作曲家のうち一人を選び、事前にその伝記を読む。試験当日に以下に示す課題の作文を書く。伝記は単独の作曲家について出版された書籍に限る(辞書・事典類の項目および楽曲解説書は認めない。持込不可)。/60分。詳細は7ページに記載。			○	○		
6 特待生面接	特待生にふさわしい人物、専門への意欲を見るための面接			○	○		
7 一般科目	以下の(1)または(2)のいずれかを選択する (1)本学で行う以下の一般科目(a)または(b)の中から1科目を選択して受験(45分) (a)英語(コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ、英語表現Ⅰ) (b)国語(国語総合、ただし古文・漢文を除く) (2)大学入試センター試験の成績を利用する 以下の(a)~(f)の中から1科目を採用 (a)国語 (b)地理歴史 (c)公民 (d)数学 (e)理科 (f)外国語	※大学入試センター試験の成績を利用する場合、「国語」「地理歴史」「公民」「数学」「理科」「外国語」について、受験した科目のうち最も高得点の科目を合否判定に使用。判定の際、各科目を100点満点に換算。合否判定に使用できる科目の詳細については89ページを参照。					○

〈入試科目の見方〉

各入試の○が受験科目になります。

**ピアノミュージッククリエイターコース[パターン②]** 〈パターン②と前ページのパターン①のいずれかを  
選択して受験〉

※ピアノ実技(1曲)と小論文等及び面接の「パターン①」と、ピアノ実技を主とした「パターン②」を選択できます。

試験科目	内容	注記	A	同時 出願	特待 公願	特待 生	公募 推薦	一 般
1 主科実技課題	以下の(1)~(3)のすべてを演奏する (1) バッハ J. S. Bach: Das wohltemperierte Clavier (Klavier) (平均律クラヴィーア曲集) 第1巻および第2巻の中から任意の1曲。フーガのみ。 (2) エチュード 以下の(a)~(g)のいずれかの曲集の中から、任意の1曲。 (a) C. Czerny: Die Kunst der Fingerfertigkeit, Op. 740 (699) (ツェルニー: 50番練習曲) (b) J. B. Cramer / Bülow: 60 Ausgewählte Etüden (クラマー=ビューロー: 60の練習曲) (c) M. Clementi: Gradus ad Parnassum, Op. 44 (クレメンティ: グラドゥス・アド・パルナッスム) (d) M. Moszkowski: 15 Etudes de virtuosité, Op. 72 (モシユコフスキ: 15の超絶技巧練習曲) (e) I. Moscheles: 24 Studien, Op. 70 (モシエレス: 24の練習曲集) (f) F. Chopin: 12 Etudes, Op. 10 (ショパン: 12の練習曲集) (g) F. Chopin: 12 Etudes, Op. 25 (ショパン: 12の練習曲集) (3) ソナタ J. Haydn, W. A. Mozart, L. v. Beethoven のソナタから1曲を選び、任意の楽章1つを演奏する。	※(1)は暗譜とする。 ※(2)(3)は繰り返しなしで暗譜とする。 ※(1)(2)(3)の順で演奏すること。 演奏の途中で止める場合がある。	○	○	○	○	○	
2 楽典	筆記試験(60分)		○	○	○	○	○	
3 ソルフエージュ課題	以下の(1)と(2)の両方を受験する (1) 聴音 旋律聴音2題、および和声聴音1題(上三声密集四声体) (2) 以下の(a)または(b)のいずれかを選択 (a) F. Wüllner: Chorübungen der Münchener Musikschule (コールユーブンゲン 第1巻) No.43c)、43f)、48a)、50d)、52b)、55b)、57b)、58b)の中から1曲を当日指定 (b) 新曲視唱	※聴音および新曲視唱の実施方法は14ページを参照。唱法は固定ド、移動ドいずれでもよい。	○	○	○	○	○	
4 主科面接	主科に対する試問および出願書類(AO面接資料等)に関する内容を含む		○	○	○	○	○	
5 特待生作文	指定する作曲家のうち一人を選び、事前にその伝記を読む。試験当日に以下に示す課題の作文を書く。伝記は単独の作曲家について出版された書籍に限る(辞書・事典類の項目および楽曲解説書は認めない。持込不可)。/ 60分。 詳細は7ページに記載。				○	○		
6 特待生面接	特待生にふさわしい人物、専門への意欲を見るための面接				○	○		
7 一般科目	以下の(1)または(2)のいずれかを選択する (1) 本学で行う以下の一般科目(a)または(b)の中から1科目を選択して受験(45分) (a) 英語(コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ、英語表現Ⅰ) (b) 国語(国語総合、ただし古文・漢文を除く) (2) 大学入試センター試験の成績を利用する 以下の(a)~(f)の中から1科目を採用 (a) 国語 (b) 地理歴史 (c) 公民 (d) 数学 (e) 理科 (f) 外国語	※大学入試センター試験の成績を利用する場合、「国語」「地理歴史」「公民」「数学」「理科」「外国語」について、受験した科目のうち最も高得点の科目を合否判定に使用。判定の際、各科目を100点満点に換算。合否判定に使用できる科目の詳細については89ページを参照。					○	

- 作曲・音響デザインコース
- サウンドプロデューサーコース
- 指揮コース
- ピアノ演奏家コース
- ピアノ指導者コース
- ピアノミュージッククリエイターコース
- オルガンコース
- 電子オルガンコース
- 弦管・打楽器コース
- 弦管・打楽器演奏家コース
- ウインドソフナーコース
- 声楽コース
- ジャズコース
- ポピュラー音楽コース
- アートマネジメントコース
- 舞台スタッフコース
- 音楽療法コース
- ミュージカルコース
- バレエコース
- 音楽教養コース